

J.S.Bach Sinfonien

バッハ シンフォニア

第 14 番 変ロ長調 BWV800

- 楽曲分析と演奏法 -

著者：市花 真弓

目次

はじめに、インヴェンションとシンフォニアについて	3
1. バッハ「シンフォニア」第14番 B dur BWV800 楽譜	4
2. 主題とゲネラルバスと装飾記号の演奏について	6
3. バッハ「シンフォニア」第14番 B dur BWV800 第I展開部の楽曲分析と演奏法について	8
4. バッハ「シンフォニア」第14番 B dur BWV800 第II展開部の楽曲分析と演奏法について	10
5. バッハ「シンフォニア」第14番 B dur BWV800 第III展開部の楽曲分析と演奏法について	13
6. バッハ「シンフォニア」第14番 B dur BWV800 第IV展開部の楽曲分析と演奏法について	14
7. 楽譜にアナリーゼの内容を表記しました。 テンポ、強弱も記しました。	16

■はじめに

2003年度からメールマガジンの配信システムを利用しました音楽講座としまして、「バッハ インヴェンションを弾いてみよう！- 楽曲分析と演奏法 -」の発行を始め、2012年にPDF書籍版に移行致しました。思いがけず、多くの皆様にご利用頂け、パソコンの前で頭が下がる思いであります。

2019年3月～2020年5月、バッハ インヴェンション全15曲の全面作り直しを致しましたが、シンフォニアも同様に全面作り直しをする事と致しました。作る度に新たな発見などあり、このように音楽に向き合っている今に感謝しております。(2020年6月)

■インヴェンションとシンフォニアについて

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (*Johann Sebastian Bach* 1685-1750) のクラヴィーア曲は、その大部分がケーテンの宮廷楽長時代 (1717~1723) に書かれました。インヴェンションとシンフォニア BWV 772-801 (*Inventionen und Sinfonien* BWV 772-801) も、「フランス組曲」「イギリス組曲」「平均律クラヴィーア曲集第1巻」などと共にケーテン時代に書かれた作品の一つとなります。クラヴィーア曲の多くは、教育目的として書かれました。バッハには、自身が「いずれも生まれながらの音楽家」と誇らしく語る息子たちがおり、とりわけ豊かな才能に恵まれていた長男ヴィルヘルム・フリーデマンの教材として「ヴィルヘルム・フリーデマン・バッハのためのクラヴィーア小曲集 (*Klavierbüchlein für Wilhelm Friedemann Bach*)」(1720年頃) が編まれました。この曲集の中に「インヴェンション」の最初の形が見出される事となります。そこでは、2声の曲が「プレアンブルム」(*Praeambulum*)、3声の曲が「ファンタジア」(*Fantasia*) と題されていました。その後、バッハはさらに改訂し、1723年に配列も変え、題名も2声曲を「インヴェンツィオ」、3声曲を「シンフォニア」と改めました。

自筆浄書譜には次のような表題があります。

「クラヴィーアの愛好家、とりわけ学習希望者が、まず2声部をきれいに弾き分けるだけでなく、さらに上達したならば、オブリガートの3声部を正しくそして上手に処理し、それと同時に、すぐれた楽想を得るだけでなく、それらを巧みに展開すること。そしてとりわけ、カンタービレの奏法を身につけ、それとともに作曲の予備知識を得るための、はっきりした方法を示す正しい手引き。」

シンフォニアもインヴェンション同様に、曲集に採用されています 15 調は、ハ長調 - ハ短調 - ニ長調 - ニ短調 - 変ホ長調 - ホ長調 - ホ短調 - ヘ長調 - ヘ短調 - ト長調 - ト短調 - イ長調 - イ短調 - 変ロ長調 - ロ短調 と 嬰ヘ短調、嬰ハ短調、変イ長調を除く 15 調が上行形に整えられています。(シャープ、フラット4つまでの調です。)

Sinfonia 14

Johann Sebastian Bach
BWV 800

The musical score for Sinfonia 14, BWV 800 by Johann Sebastian Bach, is presented in five systems. Each system consists of a right-hand staff (treble clef) and a left-hand staff (bass clef). The key signature is G minor (two flats) and the time signature is 3/4. The score is heavily annotated with fingering numbers (1-5) and articulation marks such as slurs and trills. The right hand often plays sixteenth-note patterns, while the left hand provides a steady accompaniment with eighth and sixteenth notes. The piece concludes with a final cadence in the right hand.

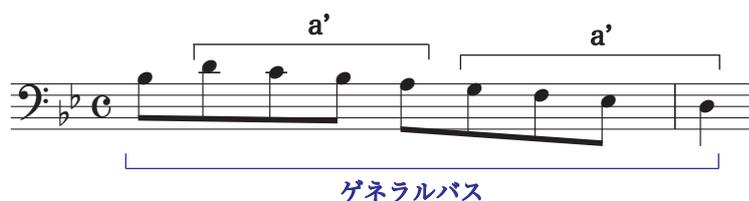
2. 主題とゲネラルバスと装飾記号の演奏について

主題の歌い出しが印象的なフーガです。冒頭の子題部分から、この曲を構成する上でのあらゆる素材が引き出されています。

主題です。



主題に対して、曲の冒頭にゲネラルバスが設置されています。



ゲネラルバスは、主題中の動機 a の拡大した音型により形成されています。

そして、2小節上声主題部分の中声対旋律中の動機 b。

この曲は、一定の対旋律を保持していません。冒頭の子題部分の中の動機が、各所に用いられています。